

平成19年度 白鳥寮・しらとり 事業報告書要約

平成19年度の概況

<p>1 母子生活支援施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>退所世帯 17(公営住宅入居 3・アパート入居8・他施設転出3・実家2・その他1) 他施設転出のうち、2世帯は世帯変化</li> <li>入所世帯 16(夫の暴力等 7・住宅事情等8・養育困難1)、更に重複する状況・傾向の内訳として、ドメスティックバイオレンス10・若年母子1・外国籍 1がある。</li> <li>今年度在籍34世帯中、府中市からの受け入れが9世帯の他、保護実施機関は14市に及んだ。</li> <li>サービス自主評価(1月実施)、第三者評価(11月実施)</li> </ul> <p>2 支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規相談件数110件(前年は244件、うち虐待6件、前年は21件)</li> <li>オープンルームは前年に比べ260名増加した。</li> <li>主にしらとり近隣地区(武蔵台・西原・北山・栄町・本宿・西府)からの参加が多いが、今年度は、国立市や国分寺市からの参加が大変増えている。</li> <li>NPは春・秋・冬の3回実施(計22組43名参加) 終了後も自主活動しているグループが多く、組織化に成果(NPとはノーバディズ・パーフェクトという子育て支援プログラム)</li> </ul> <p>3 サービス事業</p> <p>①トワイライトステイ事業</p> <p>年間延4,455名(前年比1,339名減、高倉保育所の利用により減少した) 平均年齢は5.3歳(昨年と同様) 保育所・学童クラブへの迎えの他、各自宅への迎えを希望する世帯が増加</p> <p>②ショートステイ事業</p> <p>延人員は119名(宿泊 57・日帰り62 前年128名) 実利用人数は12件18名</p> <p>③母子(父子)緊急一時保護事業</p> <p>実人員27名が利用 延168名(前年は実人員54名、延べ520名) 滞在期間が短期の利用が多くなり、大幅な減少</p> <p>④病後児保育事業</p> <p>登録数51名 利用延べ人数は14名(前年28名)</p>
---

平成19年度の課題

<p>前年度からの課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>利用者が日々安心・安全に生活および利用できる建物管理と維持 ・「子ども」が安心して、健やかに育つ環境を最重視</li> <li>被虐待児個別対応職員常勤化(19年度～)配置による、個別支援・退所後の見守り支援の充実。</li> <li>厚労省通達にあわせた、標準書式に基づく自立支援計画票の活用による利用者支援</li> <li>府中市「要保護児童対策協議会」の関係機関として、地域における児童家庭支援の窓口を担う。</li> <li>府中市子ども家庭支援センター「たち」との連携による市内子育て支援の拡充 ・「しらとり」独自のサービスの確立・提供</li> <li>府中市における新たなサービス事業所開設に伴う、地域支援における役割分担、連携等の協議・試行。</li> <li>新築12年を経ての建物・設備の現状把握、見直し、施設整備等の検証 ・中長期経費計画の策定</li> </ol> <p>新たな課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>記録の正確、適切な記述、文章作成を行うための職員のスキルを高める。 (19年度事業評価分析シート 課題より)</li> <li>サービス自主評価・第三者評価結果を踏まえ、職員のサービスマナーのより一層の向上 (19年度事業評価分析シート 課題より)</li> <li>白鳥寮における若年・外国籍・精神的課題・DVといった入所世帯への対応強化</li> </ol> <p>4 サービス利用者の減少の原因の分析</p>
--

		サービス利用・提供状況	平成19年度事業計画の執行評価
運営・管理		<ol style="list-style-type: none"> <li>常に「子ども」が生活する場であることを意識し、「安全・安心」な建物管理を維持した。とりわけ、防災面・衛生面については泉苑連動の下、細心の注意を図った。また、来所者把握を更に徹底した(リアルタイムでの人員確認・不審者侵入防止)</li> <li>職員の健康管理および心のケアに配慮した。(定期面談の実施)</li> <li>コスト管理の徹底により、効率よい運営を実施した。</li> <li>第三者評価および自主サービス評価を継続し、利用者視点でのサービスを推進した。</li> <li>各種研修に参加しスキルを高めた。(外部研修・母子3施設合同研修11月・施設内研修)</li> <li>整備したマニュアルを稼働し、検証し更なる活用に向け改善した。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>毎月の防災訓練、自衛消防審査会への職員派遣等を行い施設における防災意識・技術の向上に努めた。防犯指導に沿った来所者の把握・部外者の侵入防止の意識を高め、安全な生活環境の維持に努めた。</li> <li>感染症予防ではペーパータオルの設置や消毒等を行い、安全衛生のための環境整備を行った。</li> <li>本部による共同契約や購入によるコストダウンを図った。</li> <li>第三者評価及びサービス自主評価を実施し改善を図った。</li> <li>法人研修・外部研修に積極的な参加を促した。</li> <li>マニュアルの活用で、職員の対応が改善された。</li> </ol>
	府中市委託事業	<p>子ども家庭支援センター</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>府中市子ども家庭支援センター「たち」の存在を踏まえ、連携を図った事例研究や各種研修等合同で実施した。</li> <li>しらとり内支援会議を開催(年間26回)し、情報の共有を図った。</li> <li>新規相談件数は110件(前年244件) うち虐待相談は6件(前年21件)した。</li> <li>オープンルームは年24回開催(あおぞら5回－黒鐘・武蔵台公園) 延2131名参加した。</li> <li>NPプログラムは春秋冬3回実施(5月～7月・10月～12月・1月～3月)計22組43の母子が参加した。</li> </ol> <p>病後児保育</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>登録数51名 利用延べ人数は14名(前年28名)と登録数、利用共に減少した。</li> <li>利用基準の検討見直しや職員への徹底に努め、問い合わせ時の混乱を防いだ。</li> <li>面談時の細かい留意事項等の確認により当日利用のトラブルはなく対応できた。</li> <li>事業そのものの対応にむけ、府中市と協議中</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>市も含めての合同企画に参加し、実りあるものとなった。</li> <li>情報の共有を図るにより、より多くの利用者支援を円滑に行うことができた。</li> <li>今年度より統計方法の変更あり。たちとの重複ケースカウントせず。</li> <li>より多くの方が参加し、より良いものとなった。</li> <li>前年同様希望者が多かった。</li> </ol>
母子生活支援	母親	<ol style="list-style-type: none"> <li>利用者が自立に向けて、個々の目標を達成できるように支援した。</li> <li>心理職(臨床心理士他)との連携による、心のケアに基づく利用者支援を行った。</li> <li>就業支援-ハローワークおよび求人案内の提供や技能習得を支援した。</li> <li>若年層の利用者への自立・子育て支援を行った。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>定期面接を実施し自立支援計画を作成した。短期間で退所したケースで計画作成が間に合わなかったことは、今後改善する。</li> <li>心理士と連携し、グループ療法ミニマザーグループを10回と寮内NPを2回行うことができた。</li> <li>職業訓練校の支援でパソコンやヘルパー資格を取得することができた。</li> <li>若年母子に対して、NPやグループに参加してもらい、学ぶ機会を作り支援した。</li> </ol>
	学童	<ol style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが安心して日常生活を営めるように、施設での集団活動で仲間意識を育みながら支援した。</li> <li>課題等のある児童に対しては個別支援を行い、子どもに応じた関わりを行なう。必要に応じて心理職、学校、関係機関と連携し、支援した。</li> <li>子どもたちが、遊びや行事活動を通じて、豊かな感情を養うように支援した。</li> <li>様々な場面で子どもたちに発言の機会を設け、自主性を育んだ。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>心理職と連携し、「ストレスマネジメントプログラム」を施設内学童保育児を対象に行なった。</li> <li>小学5年生以上の児童に対しては、学習・行事等において個別プログラムを計画・実施した。</li> <li>日常の保育や行事を体験することで豊かな感情を育んだ。</li> <li>朝の会や帰りの会等で、行事の内容を話し合い、子どもたちの考えや意見を取り入れながら行事を実施した。</li> </ol>
	保育	<ol style="list-style-type: none"> <li>乳幼児の保育に相応しい環境設定を行い、月齢に合った保育計画を立てて実行した。</li> <li>母親の就労と子育て支援のために、安全に十分配慮しながら寮内保育を行った。</li> <li>保育の専門性を生かしたオープンルームを通じての地域子育て支援を実践した。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>月案・週案をたて、基本的な生活習慣の自立を図った。</li> <li>月1回の健康診断、年2回のぎょう虫検査を実施した。</li> <li>オープンルームに参加して地域の子どもの交流をもった。6月にはつくろうディ、10月には遊びディを実施し、通園児との交流をもった。</li> </ol>
連携	食事	<ol style="list-style-type: none"> <li>季節に応じた旬の食材を献立に取り入れ、子どもたちの豊かな味覚を形成した。</li> <li>衛生管理の徹底を行なった。</li> <li>乳幼児の年齢や体調に合わせた食事の提供、食物アレルギーへの代替食対応を行った。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>旬の食材を使用し、献立を作成した。子どもたちの希望等も取り入れ、メニューを改善することができた。</li> <li>食材を、小分けに仕入れることで、無駄を省き新鮮な食材を使用できるように調整をおこなった</li> <li>子ども担当職員から、子どもの年齢や体調、アレルギーなどを毎食確認し、それぞれの子どものに合わせた食事を提供した。</li> </ol>
	サービス事業	<ol style="list-style-type: none"> <li>トワイライトは年間4,455名(前年比1,339名減) 前年度に比べ減少した。登録は149名うち実利用は117名</li> <li>迎えの車輛はつくば観光に委託(2台契約)。</li> <li>ショートステイは、実績119名(前年128名) 短期利用者が多かった。</li> <li>母子(父子)緊急一時保護事業は、9件168名と大幅に減少。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>市内の新規施設(高倉保育所)ができたことにより、利用人数は減少した。</li> <li>迎えについては、問題なく執行できた。</li> <li>ショートステイでは他機関からの依頼が減少した。</li> <li>利用者の減少の分析が必要である。</li> </ol>